

モード Mode Mode は語る

中野 香織

「ビッグボス」こと新庄剛志さんが監督就任会見で着用したスーツは楽しかった。巨大な襟のシャツに赤いスーツ。ズボンの左右は異なる。旧習に決別するワクワクするものが登場したという印象を受けた。一方で「スーツポリス」からは厳しく評された。スーツのルールなるものをTPOにふさわしく順守すべきという保守派が苦言を呈した。

釘をさす意見もあっていい。ただ、若い世代がスーツを敬遠する理由の一つがまさにスーツポリスのうるささ。正統派のルールは伝承されていくとしても、枠外の自由な発想から生まれたスーツが登



備後木綿の着物に広島金襴織の帯ベルト。着用するのは井垣伸子・関西学院大学教授

スーツと着物に自由を

場してもいい時代ではと思う。

同じような思いを着物に抱いていた。着付けに時間と手間がかかり、ようやく着たぞと思ったら「着物ポリス」が間違いを指摘しにくる。心身が消耗するうえ、着物を脱いだ後のケアも一仕事である。

そんな苦行を経て着物を敬遠していたが、画期的な着物に出合った。宮田真由美さんが作る「音遊」の着物である。琉球藍染めデニムや有松絞りデニムで仕立てた着物を、幅広の帯ベルトで締めて着用する。宮田雅之さんが作る「和男師」の帯ベルトは、京都西陣織や広島金襴織を用い、バックルには漆や螺鈿の装飾を

ルールを超えてこそ革新

あしらう。伝統工芸を奨励しながら、自分1人で簡単に着脱できてケアも簡単。時代精神に合う洋服感覚の着物である。

真由美さんは音楽イベントなどに関わり、着付け講師の資格も持つ。海外のエンターテイナーに着付けを行ううち、簡単に着脱できる着物があればいいのにと思い、「温故知新」をテーマにした着物を考案、4年前に起業した。「堂々と楽しげに着ることが大切。別のカテゴリーとして突き抜けてしまえば、着物ポリスは何も言ってこない」と宮田さん。

「ビッグボス」の新奇なスーツも別物として振り切れればスーツポリスも黙るだろう。スーツのシステムを作った英国王チャールズ2世も、旧弊を壊して新しい時代を作ろうと挑んだ、型破りで明るい改革者だったことを忘れずにいたい。